



新社会党東京都本部委員長

江原ひであきアピール 2006.4

江原ひであき事務所

中野区南台 2-32-1 電話 (03) 3381-7656 FAX (03) 3383-8535

ホームページ <http://www7.ebara.or.jp/ebara-hideaki/>

Eメール hide-eba@cameo.plala.or.jp

区長選挙は「人間のまち中野」を創造する闘い

いよいよ区長選挙開始まで2ヶ月を切りました。今度の区長選挙は人間の心を失ってしまった(荒みきった)人間社会にあって、この中野の区政を「人間のまちを創造する区政」として、(私たち)区民の側に取り戻すことができるか否かの闘いである。

アメリカにブッシュ政権が、日本に小泉政権ができてともに5年以上になります。この間、世界中が新自由主義に席卷され、強者が暴力を持って弱者を蹂躪してきた。それらの様子は茶の間に戦場が持ち込まれ、毎日毎日“強い者が弱者を虫けらの如く殺し、足蹴にする”

一方ではグロ - バルな経済戦争！ここでも弱肉強食。強い者が弱い者を食い尽くす。企業どおしが、人間どおしが情け容赦なく、だ！ いまや人間は人間でなく“心”を喪失した人間の形をした動物になってしまった。

とりわけ、日本(この中野も)は小泉首相や石原都知事や田中区長等が進めた規制緩和と構造改革によって日本社会を構造的に破壊し、人びとが人間としての“心”を失いモラルや秩序が崩壊した。

都教委の日の丸・君が代の強制などまさに狂気である。街のコミュニティは崩壊し、助け合う心を失い、子どもに人を信じるなど教える。学校も街なかも監視カメラで息もつけない。駅前商店街はシャッター - 通りだ。若者には正規職が減りアルバイトやパートばかりで明日が見えない。富める者と貧しい者との格差は余りにも大きい。このような政治状況の中で闘われる区長選挙であることを認識しなければならぬ

中野の田中区政はどうだったか。この4年間で何をしたのか！ 田中区長の基本的政治姿勢

- 1) 自治の“質”を変える 国全体がめざすべき方向をリードするもの(小泉政治の先兵役)に区政の基本を「自己決定、自己責任」や「市場、競争原理」等を理念とする「基本構想」に変更し、裏付けのない10ヶ年計画を策定した。
そして、区政運営の基本を「住区協議会と地域センタ - の否定」「官から民へ」「小さな区役所」にする、などとしている。

2) 財政効率優先で公的責任を放棄する 自治の原点の放棄

子育て、教育、福祉、等々民営化を基本にし、“人間社会の在りよう”を軽視。
地域センタ - の廃止、保育園・幼稚園の民営化、学童クラブや小中校の統廃合。
障害者や高齢者施策の縮小・廃止。

3) 人間のまち、から大企業のまちへ 中野駅周辺の大改造計画を民間に丸投げ？

みどりや広場を犠牲にし、ハード(鉄とコンクリ - ト)なまちづくりに転換。 駅周辺や警大跡地を巨大資本の利益追求に捧げる。

4) 許されない「憲法改悪容認発言」！ 憲法は「権力者を縛るもの」

憲法第 10 章 最高法規

第 99 条 「憲法尊重擁護の義務」・・・公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負う。

‘区長’が議会で答弁するとき、‘個人’はない！ 個人としての意志表明は区長を辞してから。

このようにこの4年間の田中区政を検証するとき、まさに小泉政治を自治の場で推進する先兵役を果たしてきたことが明らかである。したがって、田中区政の継続は「人間のまち中野」の創造をめざす私たちは断じて認められるものではない。

従って、私たちが推進する区政の基本政策は下記のようになければならない。

、政策の基本 基本構想と10ヶ年計画を見直す。

保育や教育を重視し、人のくらしと命を大切にする。(民営化を見直し解雇保育士と和解 し段階的に職場復帰させる)

こども、女性、弱者の人権を尊重する。(人間らしく生きられる)

若者が夢と希望を持てる中野にする。(若者が集え、学ぶ場や企画立案の場を提供する)

みどりや広場を拡充し、災害に強いまちづくりをする。(警大跡地利用計画は当面、凍結し「中野区 100 年の計を考え、5ha 以上の防災広場をめざす)

戦争に反対し、憲法を守り生かす。

06年4月3日

新社会党、江原 ひであき